

「寅さん」と備中高梁

写真の朝日新聞 6 月 21 日夕刊「古都物語」に注目した。「寅さん」を思い出し、つい紹介したくなった。

(写真下は『追悼渥美清』アサヒグラフ増刊 1996 年 8 月 25 日)

旧国名を冠した備中高梁の方が耳になじむ岡山県高梁市は、臥牛山（約 480 ㍎）の山上に築かれた備中松山城を仰ぎ見る城下町だ。鎌倉時代に礎となる砦ができてから、ゆうに 750 年を超える時が流れている。

ここは、「男はつらいよ」シリーズ全 48 作のなかで別格のロケ地でもある。寅さんの妹、さくらの夫となった諏訪博（前田吟）の父（志村喬）の故郷とされ、第 8 作「寅次郎恋歌」（1971 年）と第 32 作「口笛を吹く寅次郎」（83 年）の 2 度、メインの舞台となったからだ。

「恋歌」では、「母危篤」の知らせに博がさくらを連れて実家に帰り、葬式で寅さんと出くわす。「口笛」では、亡父の三回忌の法事に参列。菩提寺で読経を聞いていると、寅さんが僧形でかしこまっているので度肝を抜かれる。じつは寅さん、墓参りをしたとき、出戻りで寺にいた住職の娘（竹下景子）にひとめぼれ。居着いてしまったのだ。

備中高梁はなぜ、この国民的映画に偏愛されたのか。監督の山田洋次(86)は「僕が欲しかった風景を、すべて見せてくれたからです」と語る。「北大教授だった、博の父の故郷を遠い過去の面影を残した町にしようとしていたとき、人づてに聞いて来てみたら、山あいの町並みの中を川が流れ、全体の構図の収まり方が、じつに見事でした。うってつけの古めかしい屋敷もあった。なにより得難いものがお寺でした。長い急な石段があつて、寅さんが、そこで寺の娘と出会うストーリーが即座に思い浮かんだ」

「口笛」で、諏訪家の菩提寺「蓮代寺」に擬せられた、石段のある寺は薬師院泰立寺だ。住職の薬師寺龍盾(46)は、こう話す。「ここは山城の城下町なので、山すそに寺がズラリと並び、戦のときは出城の役目をになっておりました。そのため必要以上に石垣が高く積まれ、長い石段を上らねばならなくなった。それが縁で映画を撮っていただけたのですから、いまとなっては、ありがたいことです」

「口笛」で、寅さんが珍しくマドンナと相思相愛になるが、結ばれることなく旅から旅へ。心残りは、いつもより多めに引きずっていたに違いない。

(2018 年 6 月 24 日)

